

笠井賢一 七十三歳誕生日自祝

「幽遊自擲を
生きる」

私にとって大事な作家宮澤賢治・石牟礼道子・多田富雄の詩を朗唱します。
各回それぞれのゲストの映像や絵や謡や演奏をお聞かせします。

（ゲスト）

若村麻由美（俳優） 設楽 瞬山（吹物）
梅若 実（能役者） 橘 政愛（打物）
櫻間 金記（能役者） 大倉源次郎（小鼓）
赤坂 真理（作家） 岩佐 鶴丈（琵琶）
保立 道久（歴史学者） 佐藤 岳晶（地歌・三味線・作曲家）
藤井 克彦（絵屋） 東金ミツキ（古楽器セルバン）

2022年
1/22

（土）

14時

17時

・23

（日）

14時

17時

会場 澤田写真館

『幽遊自擲を生きる』

私こと笠井賢一は還暦からさらに一巡り年を重ね73歳になります。

西鶴の辞世は「浮世の月見過しにけり末二年」で、数え年で52歳まで生きた西鶴は人生50年からすれば2年も長く生きたと照れたのでしょうか。

年下のライバルでもあった近松門左衛門は数え年で72歳まで生きてその辞世の前文に「世のまがひ者」とやや自嘲し、さて人に辞世は何かと問われれば、と辞世を二首。

「それぞ辞世

去ほどに扱もそののちに

残る桜が花し匂はば」

それに重ねて

「残れとは思ふも愚か

埋づみ火の消ぬま

あだなるくち木がきして」

まさに戯作者の精神で、永遠に残るわけないのさ、と背反する辞世を残しました。

さて私はと言えば巨人二人に比べるべくもなく、馬齢ばかり二人を超え、今はの際にいふべく思ふべき真の一大事は一字半言もなき倒惑(近松の言葉)、多くの方々に支えられここまで生き延び仕事を続けられたことを深謝し、更にはまだまだやりたい煩惱具足の我身に、ゲストの方々からさらに刺激をうけて何とか延命を図ろうという不逞の魂胆、「幽遊」つまりは微かに腹黒く遊び心も忘れず、「自擲」自我をば投げすて擲つ覚悟でござります。左様ならば、並み居る皆様様！隅から隅までずらずいーっと、よろしくお付き合ひのほどおたのみ末世！

私の死後も桜の版木に彫った浄瑠璃が世に咲き残ったなら、それこそが辞世だ

とはいえ、残り火が消えるまでのいたずら書きのごとき作品が、後世に残れると思うも愚かなこと

1/22 (土)
14時

ゲスト

若村麻由美(俳優)
設楽 瞬山(吹物)
橘 政愛(打物)
藤井 克彦(絵屋)

若村麻由美さんとは「平家物語」から原文で「小宰相身投」と『木曾最期』の一人芝居、『千手』を重衡役に野村萬斎さんを迎え音楽劇として創り各地の能楽堂で上演しました。

昨年は近松門左衛門の『曾根崎心中』を若村麻由美の劇世界で原文語り芝居として上演、更に『心中天の網島』の上演を目指します。絵屋の藤井克彦さんは四十年近く私の宮澤賢治作品の美術を担当。若村さんともアイヌ神謡集で仕事をしました。今回即興の絵を描いてもらいます。演奏家のお二人も長く私の作品に出演、なくてはならないパートナーです。

1/22 (土)
17時

ゲスト

梅若 実(能役者)
櫻間 金記(能役者)
大倉源次郎(小鼓)

梅若実師は私と同世代で梅若家の長い長い伝統を一身に体現された能役者です。私は石牟礼道子作の、これまでの新作能を超える新作能「不知火」を2002年、3年、4年と演出。その主役が海霊の宮の斎女不知火で梅若師、もう一人の重要な役が穩亡の尉実は末世に現れる菩薩役の櫻間金記師でした。2015年には、ホメロス作叙事詩「オデッセイア」から『冥府行』の能本を私が書き、ギリシャ・エピソードを古代円形劇場で上演した。この二つは私の新作能の代表作であり梅若師にシテを演じて頂いた。さらに来年3月3日には野村幻雪追悼公演で、幻雪師が上演を望んでいた『空と海と光と空海の能』の一部を梅若実師の節付と地謡で、観世鎮之丞師のシテで舞って頂きます。あわせて伝統の奥深さと共に新作能の仕事も次世代に渡し、伝えていくことを、梅若、櫻間、大倉のお三方に語り合って頂きます。

1/23 (日)
14時

ゲスト

赤坂 真理(作家)
岩佐 鶴文(琵琶)
設楽 瞬山(吹物)
佐藤 岳晶(地歌・三味線・作曲家)
東金ミツキ(古楽器・セルパン)

1/23 (日)
17時

ゲスト

保立 道久(歴史学者)
岩佐 鶴文(琵琶)
設楽 瞬山(吹物)
東金ミツキ(古楽器・セルパン)

赤坂真理さんは作家として数々の賞を受賞されていますが、私の一座が「平家物語」の始源へ「乱世の声」を上演した折は俳優と新作の今様を創作してもらいました。赤坂真理さんと佐藤岳晶さんとは、石牟礼道子さんの晩年何度か一緒に施設にお尋ねして、歌を歌ったり、石牟礼道子作の『六道御前』を浄瑠璃劇として石牟礼さんの施設に出演公演をした折も一緒しました。「物語る演劇」が私の演劇活動の原点です。赤坂真理さんとはその物語を巡って語り合いたいと思います。また石牟礼さん遺愛の板三味線で佐藤さん作曲の石牟礼さんの浄瑠璃を佐藤岳晶さんに歌ってもらいます。

保立道久さんは東京大学史料編纂所長を勤められ、岩波新書「平安王朝」や同「歴史のなかの大地動乱」奈良・平安の地震と天皇、歴史新書「かぐや姫と王権神話」竹取物語、天皇・火山神話、講談社学術文庫「物語りの中世」神話・説話・民話の歴史学」といった実に刺激的な本を書かれていて、演劇人である私たちにも刺激を与えてくれています。2019年多田富雄没後九年追悼公演で新作能「望郷歌」(シテ鶴澤久)を演出した折の出会いで、現在はライフワークの壮大な「神話論」を書き進められています。「古事記」や「竹取物語」を演出してきた私は、さらなる刺激と教えを受けたいと切望しています。

2022年
1/22 (土) 14時 17時
23 (日) 14時 17時
(各回30分前開場)

会場 澤田写真館

文京区本駒込4-39-9
電話03-6884-1477
●JR山手線「本駒込」
南北線「本駒込」
千代田線「千駄木」
より徒歩約10分

料金 3000円(全自由席)
一度ご覧になった方は他の回も1000円でご覧頂けます。

お申込・お問合せ アトリエ花智
TEL090-9676-3798

※席に限りがありますので必ず事前にご予約ください。

